

標 題	<p>今年も農林高校でぶどうの接ぎ木実習を開催！</p> <p>～苗木の増産と安定供給に期待～</p>
-----	---

(ダイジェスト)

出雲ぶどう部会が優良系統デラウェアへの改植を進めている中、昨年から出雲農林高校では産学官連携により、優良系統デラウェアの苗木育成に取り組んでいます。今年も同校生徒による、ぶどうの接ぎ木実習が農業技術センター（以下農技C）で開催され、約300本の苗木供給を予定しています。また、苗木に必要な台木の安定調達を目的に、台木の母樹も育成することとなり、台木苗木の定植も行われました。今後も苗木の安定生産、供給が期待されています。

部会では、栽培面積や出荷量が減少しているデラウェアの産地再生を目指し、優良系統デラウェアへの改植を進めており、地元での良質な苗木の生産を求めています。

そこで、昨年からデラウェアの課題研究に取り組んでいる出雲農林高校と、地元関係機関が連携し、優良系統デラウェアの苗木育成に取り組み、昨年12月には約150本の苗木を部会へ提供しました。苗木の品質は非常に良く、部会からはさらなる増産が期待されていました。

それに應えるため、今年の3月16、19日に、食品科学科2年生38名が農技Cへ出向き、普及部と農技C（果樹科）の指導のもと、約450本の穂木を接ぎ木しました。接ぎ木したものは発根処理し、活着を確認後、5月に同校の苗木育成ハウスへ定植する予定としています。

また、苗木の台木（大野台木）を安定して調達するため、今年から農林高校でその母樹を育成することとなり、3月20日に、1年生14名がぶどうハウスに大野台木4本を定植しました。

こうした取り組みは生徒達の課題研究の一環であり、3月15日には普及部と農技Cが、去年の試験の講評と今年の課題研究のアドバイスをを行い、今年には接ぎ木の方法を変えたり、穂木の品質の違いによって苗に違いが出るかを研究する予定としています。

今後も普及部としては、関係機関と連携し、苗木の安定生産・供給ができるよう、継続的な支援を行っていきます。



接ぎ木実習の様子



課題研究支援の様子